

不妊検査を受ける患者・カップルの自律的意思決定を支える看護支援の実践

皆吉田津子¹ 松山由紀子¹ 中西佳与¹ 大内美紀¹ 岩谷賀奈¹ 藤井三恵子¹ 増田春香¹

中岡義晴¹ 森本義晴²

¹IVF なんばクリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】

不妊治療において、患者・カップルが十分な情報を得たうえで自ら意思決定することは重要である。治療開始前に実施される不妊検査は、その後の治療方針を決定するうえで不可欠である一方、身体的・精神的苦痛を伴い、不安や戸惑いを抱えながら受ける患者・カップルも少なくない。また検査結果は今後の治療選択に大きく影響するため、検査の目的や内容を十分に理解し、納得したうえで臨めるよう支援することが求められる。当院では、患者・カップルの自律的な意思決定を支えることを目的に、様々な看護支援を実践している。今回、その取り組みについて報告する。

【方法】

当院における不妊検査時の看護支援について実践報告としてまとめた。支援内容は、パンフレットや説明動画、YouTube を活用した情報提供、クリニカルパスを用いた検査・治療の説明、相談室での個別相談、内診スカートの使用による羞恥心への配慮等である。また、患者・カップルが疑問や不安を表出しやすい環境づくりを意識し、それぞれの理解度や思いに合わせた説明を行っている。

【結果・考察】

看護師は、不妊検査は原因をどちらか一方に求めるものではなく、今後の治療方針を検討するための情報を得ることが目的であると説明している。また検査を行っても必ずしも原因が明らかになるとは限らないことを伝え、患者・カップルが正しい情報をもとに治療を選択できるように支援している。不安や疑問に寄り添い、ともに考える姿勢を大切にすることは、安心して検査に臨むことに繋がり、その後の治療への理解や納得を深める一助になると考える。さらにカップル双方への支援を意識し、「二人で一緒に取り組む」という認識を共有できるよう関わることも重要である。今後も患者・カップルに寄り添った看護を提供するため、現状に満足することなく支援内容を見直し、よりよい看護の実践を目指していきたい。